

こどもたちの感謝の贈り物

～勤労感謝でJAを訪問～

勤労感謝の日を前に、こどもたちがJAの各支店を訪問し、職員に日頃の感謝の言葉を伝え、手作りのプレゼントを渡した。

11月22日、大坊こども園のらいおん組が本店を訪問した。園児は「いつも、お仕事ご苦労様です」と感謝の気持ちを伝え、手づくりのカレンダーを山内敏代表理事組合長へ手渡した。山内組合長は「素敵なプレゼントをありがとうございます。組合長室に飾り、たくさんの人に見てもらいます」とお礼の言葉を述べた。



本店を訪問した大坊こども園

スポーツで各地区との交流

～JA津軽みらい青年部ボウリング大会～

JA津軽みらい青年部（工藤大輔青年部長）は12月7日、青年部の親睦を深めることを目的としたボウリング大会を弘前市で開いた。ポリシーブックに掲載されている活動の一環で、今回が初の開催となった。各地区の青年部員ら38人が参加し、得点を競い合い交流を楽しんだ。参加した青年部員は「他地区の部員との交流ができてとてもいい。これまで接点の無かった人とも話さきっかけになった」と笑顔で話した。

工藤部長は「農業者にとって仲間作りのための交流は大事。特に今回は同地区だけでなく、他地区との交流ができた。今後も継続していきたい」と話した。



交流を楽しむ青年部員

報告会で精算を確認

～平成30年産桃精算報告会～

11月30日、平成30年産桃の精算報告会を本店で開き、生産者、市場関係者ら約30人が出席。

30年産は、初期生育は良好であったが、8月中旬の天候不順からせん孔細菌病の発生が多く見られ、収穫量減となり、前年を下回る結果となった。

販売については、終始高値基準の販売となり、販売金額は前年比123.3%の約7800万円となったことを報告した。

平賀青果センターの古川正喜係長は今後について「産地力・ブランド力の向上を図るためにも、主力品種の品質向上に努め、9月上旬から彼岸にかけての需要に合わせた品種構成、出荷体制が必要。また、せん孔細菌病対策が急務となる」と話した。



精算を確認した報告会

昨年の販売額を大きく上回る

～南八甲田高原野菜組合販売反省会～

南八甲田高原野菜生産組合（比内保幸組合長）は11月13日、平川市のアップルランドで販売反省会を開いた。生産者や市場関係者、運送会社、種苗会社、JA関係者ら約70人が出席。平成30年産の販売実績を報告した。今年産は低温や長雨などの影響で、播種作業の遅れや生育不良を招いたが、販売額は主力の大根、人参、こかぶをはじめ全体で約5億9000万円となり、昨年の販売額を大きく上回ったことを報告した。

比内組合長は今後について「農業を取り巻く環境は厳しいものとなる。当組合は少しでも有利な販売を行うために今年から、GI（地理的表示保護制度）の取得に取り組む、他産地との差別化を図る」と話した。



今年の販売額を報告した販売反省会